



花 舞

建具枠の上部（上棧）はゆるやかな曲線を描き
4枚の建具を一つのデザインとした
“流れ”をテーマに風に舞う花びらを表現

見えないうところまで 行き渡る誠実な職人技

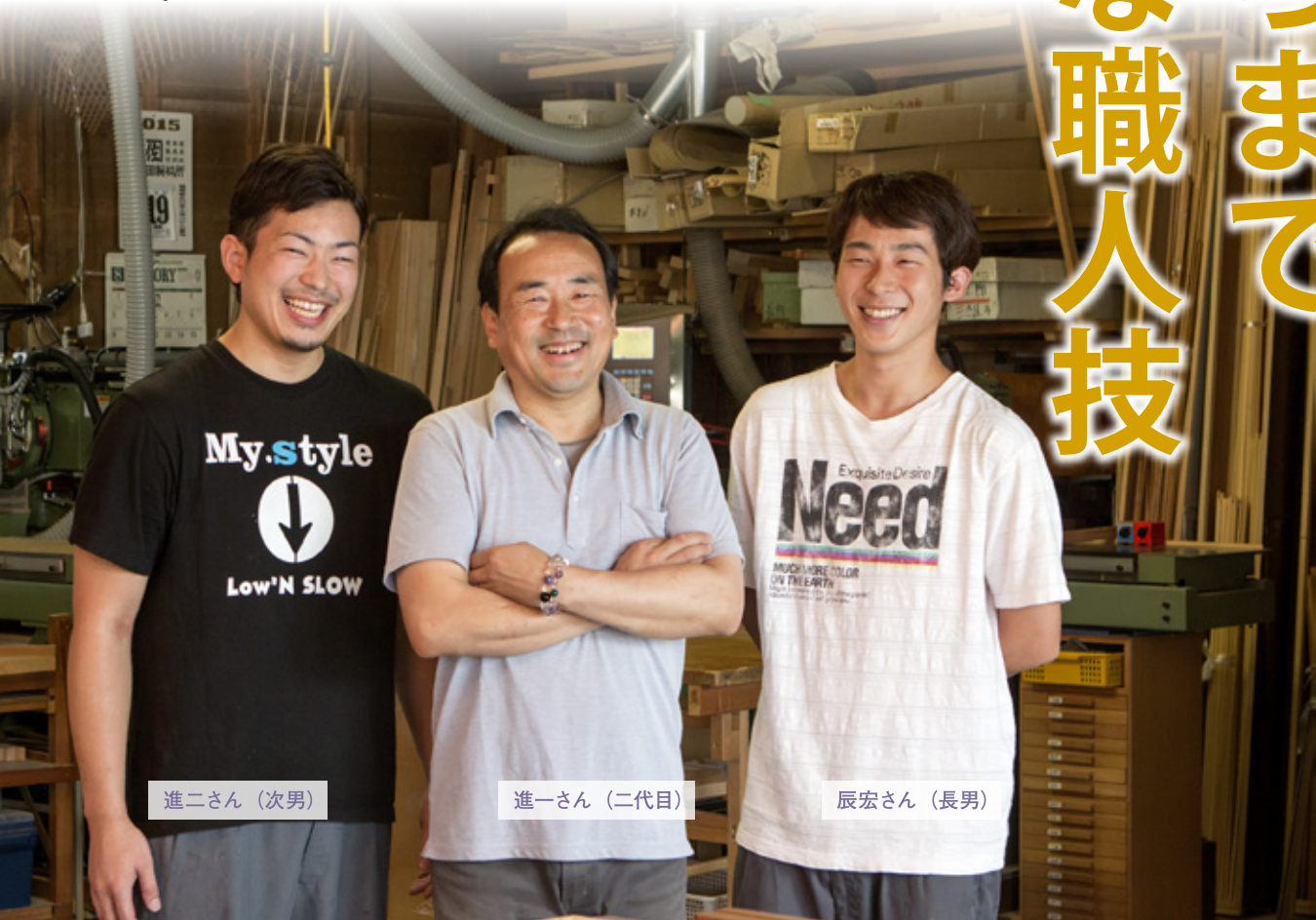
仁田原建具製作所
代表 仁田原 進一 さん

仁田原建具製作所の代表、
仁田原進一さんは、大川を代
表する組子細工職人の一人。
今月の「夢追い人」に登場し
ていただく。

仁田原建具製作所は過去の
全国建具展示会で、大臣賞を
始め、何度も入賞を果たして
いる。昨年10月に開催された
第46回大川優良建具展示会
は、最高賞の九州経済産業局
長賞も獲得している。そして
父の進さんは、福岡県版「現
代の名工」である。

仁田原建具製作所の特長は、
「コンピュータと職人の技術
の融合」。「その両方が必要だ」
と進一さんは話す。

CADをつかって、お客様
の要望に応じたデザイン画を
描いていく。実に1000分
の1ミリ単位で……。どんな
文様にするのか、どんな割り
付けにするのか決めていく。
材の組み合わせによって色合
いの微妙な違いも考える。
加工は、コンピュータ制御
で動くラジアルソーを使う。



進二さん（次男）

進一さん（二代目）

辰宏さん（長男）



屋久杉 (扇)

大変難しい「ほし網細工」で優美な扇形を作り
その中に曲げ物細工を入れ花模様を作った
腰は折物細工の「面取り万字」



銀河

建具枠の上部(上棧)はゆるやかな曲線を描き
引手も洋風に合うデザインとした
派手さを抑え落着きのある雰囲気「帯柄」が特徴

100分の1ミリ単位の精度で細工できる。土台となる骨の削りや溝の加工を行う。また基本的な格子や「葉」まで仕上げることが出来る。「こうした加工の技術は、ずいぶん進歩してきています。職人の勘だけに頼っていた時代に比べると、誤差のない、しっかりと作れるようになっていきます。小さな誤差があると、それが全体に悪影響を及ぼすのです。そして今では大きい作品も作れるようになっていきます。」

しかし、それらは「あくまでも最初の段階」。複雑な花模様など、職人の技術が求められる。仁田原建具製作所の製品には卓越した職人の繊細さがよく表れているのだ。

そのためにはまず適切な道具が必要。「葉の加工をするカンナは4種類です。研ぎ方の違いを考慮すれば8種類になります。けびき、重能等も必要です。」

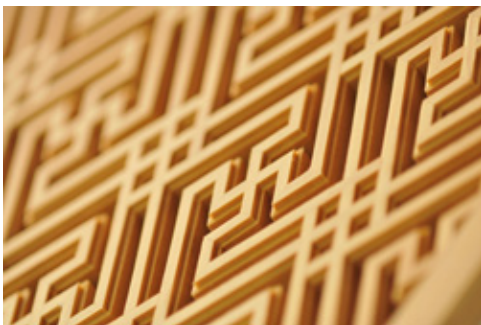
カンナの研ぎ方で風合いが



松皮とんぼ

変わってくる。新たに弟子になると、1年間はカンナの研ぎ方だけをさせられるそうだ。研ぎ方がそれほど重要だということ。松皮とんぼという組子は、「松皮カンナ」という特殊なカンナを使用する。大川でも仁田原建具製作所だけが出来る技術がある。表裏の両側から組み込んでいく「二重香図」という組子。また「面取り菱万字」。重能を使うこの作業は全国でも数人の職人しかできないそうだ。すごい技術だ。

職人として最も大事なこと



面取り菱万字

は「生真面目さ」だと進一さんはいう。見えないところまで誠実な仕事を続けられ、やがてお客様から信頼を呼ぶ事になるからだ。

一例をあげてみよう。仁田原建具の組子の外枠には、一定間隔で穴が開いている。なぜだろうか。「組子の端部はこのほぞ穴に組み込むことで強度が出て、長く持つ組子が作れるのです。ただこの部分は仕立ててしまうと、見えなくなる部分です。」安価に回っている製品では接着剤や金物で止めているものも多い

「仁田原建具ファンを一人でも多くつくりたいですね。新しいデザインや技術の向上にこれからも真摯に取り組んでいきたいと思えます。また大川市内の各建具屋さん、それぞれの長所を活かして「大川組子」のブランドをより良いものにしていければ、と願っています。」

夢は何だろうか。「仁田原建具ファンを一人でも多くつくりたいですね。新しいデザインや技術の向上にこれからも真摯に取り組んでいきたいと思えます。また大川市内の各建具屋さん、それぞれの長所を活かして「大川組子」のブランドをより良いものにしていければ、と願っています。」

仁田原建具製作所には、リピーターが多いそうだ。本物の組子・建具を作り続ける誠実な姿勢が評価されているのだろう。

そうだ。



組子端部のほぞ穴